

# 町制60周年記念特集

# 60年を振り返って



いにしえより風光明媚な温泉保養地として親しまれ、豊かな自然を観光資源として発展してきた箱根町の軌跡を10年毎にたどります。

2006年(平成18年)  
~2016年(平成28年7月)

~そして未来へ~



箱根関所復元記念式典

箱根関所復元(平成19年)、箱根ジオパーク誕生(平成24年)、箱根ジオミュージアム開館(平成26年)、スイス・サンモリッツとの友好都市提携(同)、八代亜紀さんの親善大使就任(平成27年)など様々な事業により、時代に即した町づくりを進めました。



はこね親善大使委嘱 記者会見

平成27年5月から大涌谷周辺での火山活動が活発化しましたが平成28年7月26日、1年3ヶ月ぶりに規制解除となりました。

これからも箱根町は一步、一歩着実に前へ進んでいきます。



規制解除後の大涌谷

1996年(平成8年)  
~2005年(平成17年)

平成10年10月に「かながわ・ゆめ国体」剣道競技会がレイクアリーナ箱根で開催されました。また、平成15年10月18日には第80回大会を記念して芦ノ湖畔で箱根駅伝の予選会が開催されました。



かながわ・ゆめ国体



箱根駅伝第80回大会予選会

平成17年8月25日には台風11号により町営温泉施設などが甚大な被害を受けました。



1986年(昭和61年)  
~1995年(平成7年)



タウポ町と姉妹都市提携

昭和62年10月7日にはニュージーランド・タウポ町と姉妹都市を提携、平成3年10月には箱根関所の観覧者が2千万人を達成しました。一方、観光地であるが故のごみ問題に対応するために、平成5年に美化センターが完成し、ごみの分別収集と資源ごみの回収が始まりました。



美化センター竣工式



ごみの分別収集と資源ごみの回収

1976年(昭和51年)  
~1985年(昭和60年)



作詞 戸上寛子/作曲 藤山一郎

昭和51年9月30日に町制20周年を迎え、町民歌「和む光の」が制定されました。

日本経済は安定成長期に入り、箱根湿生花園や郷土資料館等、箱根町の特性を活かした新しい施設がオープンしました。



郷土資料館開館



昭和59年5月31日には箱根寄木細工が国の伝統的工芸品に指定されました。江戸時代末期に箱根町畑宿で生まれた技術が現在まで受け継がれています。

1966年(昭和41年)  
~1975年(昭和50年)



芦ノ湖温泉開湯

昭和41年10月26日には箱根に第17番目の温泉場「芦ノ湖温泉」が開湯、昭和47年にはカナダ・ジャスパー町との観光姉妹都市提携など国際観光地への道を邁進していきます。



ジャスパー町と観光姉妹都市提携

昭和44年には現在の役場本庁舎が完成し、箱根観光物産館、温泉公民館、宮城野公民館を開設する等、公共施設の整備が進みました。



役場本庁舎完成

1956年(昭和31年)  
~1965年(昭和40年)

昭和31年9月30日に湯本町、温泉村、宮城野村、仙石原村、箱根町の5ヶ町村が合併し現在の箱根町が誕生しました。



町章を制定  
昭和33年2月11日

東京オリンピックが開催された昭和39年には総合計画を策定。日本経済の高度成長を追い風に、観光を主体とした町づくりを目指しました。同年7月4日には北海道虻田町(現：洞爺湖町)と観光姉妹都市を提携しています。



東京オリンピックの聖火が役場に1泊



虻田町と観光姉妹都市提携



町制が施行されてから60年を迎えました。この間、先人たちの英知とためめぬ努力により、今日の本町発展の礎が築かれましたことに対し、深く敬意を表するとともに、感謝申し上げる次第であります。

今後も、安心して暮らせる町づくりを推進するため、議会といたしましても、町民の皆さまの声をしっかりと受け止め、町政に反映できるよう努力していく所存でございますので、さらなるご支援とご協力をお願い申し上げます。

箱根町議会議長 沖津 弘幸

現在の箱根町が誕生し60年の歳月が経ちました。温泉や豊かな自然が織りなす景観など恵まれた資源を活かしながら、箱根町の発展にご尽力された先人の英知に改めて敬意を表します。60周年を祝うに相応しく、7月には1年3ヶ月ぶりに大涌谷園地への立入規制を解除することができ、心より嬉しく思っております。大きな節目の年を迎え、輝かしい未来へと新たな一歩を踏み出してまいりますので、一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

箱根町長 山口 昇士

